

*今月号は私が担当しました。



課長 興佐 賢司
副課長 小暮 賢司

人を襲う!? 危険生物のいろいろ

実りの秋、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋。秋には爽やかなイメージを持つ方が多いと思います。暑さ寒さも彼岸まで、という慣用句にもあるとおり、秋は過ごしやすい気候のため、作物も人も動物も、虫たちも活発に活動を始めます。そこで今号では、農作業時やレジャー時等に、注意すべき危険生物を紹介したいと思います。

① スズメバチ



名前の由来が、雀ほどの大きさであるから、という説のとおり、蜂のなかでも大型な種が多く、凶暴で好戦的な性質を持っています。昆虫類を主な食糧とし、特に新し

い女王蜂を養育する秋口に、攻撃性が高まります。自分たちの縄張り、人をはじめとする大型動物にさえも、強力な毒針で躊躇なく襲いかかります。スズメバチの巣を見つかったり、餌をとっている姿を見かけたりした時は、絶対に近づかないようにしましょう。野外での飲食時、特に、ジュース等の糖分に集まりやすく、また、黒い服や香水の成分は、スズメバチを興奮させるので注意が必要です。もしもスズメバチに刺されたら、直ちに傷口から毒液を絞り出し（口での吸引は絶対にしない）、流水で洗ってから医師の診断を受けてください。

② マダニ



日本国内では47種が生息しており、ほ乳類から発せられる体温、体臭、物理的振動等に反応し、生物に取り付き吸血行を行います。マダニの吸血は「咬む」ことで行われます。鋏角（きょうかく）と呼ばれる針状の構造物で皮膚を切り開き、口器（くき）を差し込んで体を固定し吸血します。吸血中は、様々な生理的効果のある体液を宿主に分泌しつづけ、吸血期間は約1週間と長期にわたります。吸血

③ チャドクガ



いわゆる、人を刺す毛虫で、その名のとおり茶の害虫です。ツバキやサザンカといった庭木にも大発生します。幼虫は集団で生活し、成長すると体長約2〜3cmになります。これからの季節、ツバキやサザンカの葉に毛虫が群がっているなら、チャドクガと考えて間違いないかもしれません。毒針は、目立つ長い毛ではなく、体中に50万本もある微細な毒針毛で、直接触れるのはもちろん、抜けた毒針毛が風に流され、皮膚に付着するだけでも炎症を起こします。毒性はさほど強くはありませんが、激しいかゆみが続くので注意が必要です。

④ イラガ

チャドクガと同様に、人を刺す毛虫ですが、チャドクガが「かゆい毛虫」なのに対し、こちらは「痛い毛虫」の代表です。電気虫とよばれることもあり、刺されると電撃的な痛みが走ります。

⑤ 蚊



忘れてはいけないのが蚊。たかが蚊、されど蚊です。蚊は感染症を媒介します。主なものに、日本脳炎やデング熱、マラリア等があります。デング熱やマラリアは、熱帯地方の感染症と思われるかもしれませんが、温暖化の影響で、媒介蚊の生育地域が拡大しているといわれています。

その他にも、危険な生物は多数存在していますが、共通する対策として、野外での活動時はできるだけ肌の露出を抑える、効果的な防虫スプレー等を使用することなどが重要です。また、同じ虫に複数回刺されたり咬まれたりすると、アナフィラキシーショック（アレルギー反応）を起こすこともあるので、十分に注意が必要です。